

そのままDX

いつもの書類で
「そのままDX」

今すぐ始められる現場の
DXの第一歩



OUR MISSION

日本のDXを世界一簡単に!!

私たちが提供するサービスは、
お客様のシステム制作にかかる時間をゼロにします!!

使い慣れた書類の写真を撮って送るだけで
いつもの書類がそのままシステムになります!

書類と同じ見た目で違和感なく使い始めることができ、
システムの現場定着を実現します!!

導入は一瞬、現場はそのまま、管理は簡単、と三拍子揃った
IT担当者不要のシステム導入、その名も「そのままDX」!!

アナログ業務を電子化する



■ アナログ業務とは……

書類の運用以外に、Excelやワードなどを使った、個人に紐づく属人的な業務

■ 業務の電子化とは……

個人の情報ではなく会社の共有知識としてデータベースに蓄積して、そこから分析や連絡など業務に役立てて、業務改善や顧客満足度など売上につなげていくことができる

なぜ!?! 電子化するの?? 電子化によってこんな課題が解決できます

1	時間的損失	情報検索に時間がかかる	9	品質への悪影響	ヒューマンエラーの増加	17	取引先・顧客からの信頼低下	納期回答・対応の遅れ
2		二重入力・手作業による遅延	10		現場での不具合見逃し	18		納品遅延による信用喪失
3		承認フローの停滞	11		手順書の更新遅れ	19		伝票・受発注ミスの頻発
4	コスト増加	用紙管理・印刷コストの発生	12	安全性の低下	手順の不備による事故リスク	20	下請け管理の困難化	情報連携の遅さ
5		非効率による人件費・残業増	13		帳票紛失・劣化による情報欠如	21		コミュニケーションエラー
6		不良・手直しによる損失	14		技能・ノウハウの属人化	22		機動力・柔軟性の低下
7	営業効率向上	リーリアルタイム顧客データ共有で提案精度向上	15	人材管理・育成の非効率	教育工数・期間の増大	23	売上アップ	見積・契約プロセス短縮による受注率向上
8		タイム短縮による商談回転数の増加	16		柔軟な働き方への制約	24		顧客満足度向上



課題を可視化できるデータが重要

ステップ	重要度	詳細
① 課題の特定と目標設定	10%	<p>最初に最も重要なのは、「何を解決したいのか」を明確にすることです。 漠然とした課題ではなく、具体的な目標を設定することで、その後のデータ収集や分析の方向性が定まります。</p> <p>■ アプローチ1：解決したい課題を具体的に特定する ■ アプローチ2：現状の業務を整理し、課題を明確にする</p>
② 現状把握とデータ収集	40%	<p>特定した課題に対して、現状を正確に把握するためのデータを集めます。どのようなデータが必要かをこの段階で具体的に定義することが重要です。</p> <p>■ 必要なデータの定義と収集 課題解決に必要なデータは何かを具体的にリストアップします。もし必要なデータがない場合は、新たに収集する手段を検討します。 この段階で構造化されたデータとして収集できるよう、フォーマットや粒度を意識することが重要です。</p>
③ データの整理と可視化	15%	<p>収集したデータがそのまま分析できる状態であることは稀です。 分析しやすい形にデータを整理し、視覚的に表現することで、データに潜むパターンや傾向を発見しやすくなります。</p> <p>■ 現状の可視化：グラフ、ダッシュボード、ヒートマップなどを用いて、現状のデータを様々な角度から可視化します。 ■ 追加データの検討(必要に応じて)：可視化の結果、さらに深掘りするために「このデータが足りない」と明確になった場合は、追加でデータを収集します</p>
④ 課題の深掘り分析と要因特定	20%	<p>データが整理され可視化されたら、いよいよ課題の根本的な原因(要因)を特定するための分析を行います。</p> <p>■ 解決すべきポイントの明確化：可視化されたデータから、最も影響を与えていると考えられる要因や、改善の余地が大きいポイントを特定します。 ■ 仮説の立案：特定された要因から、「これを改善すれば課題が解決するのではないか」という仮説を立てます。</p>
⑤ 施策の実行と効果検証	10%	<p>課題の要因と解決策の仮説が明確になったら、具体的な施策を実行し、その効果を検証します。</p> <p>■ 施策の実行：立案した仮説に基づき、具体的なアクションプランを策定し実行します。 ■ 効果の測定と評価：「施策によってどのような変化があったか」「目標は達成できたか」を客観的に評価します。</p>
⑥ 改善と反復	5%	<p>データを使った課題解決は一度で終わるものではありません。実行と検証を繰り返すことで、より効果的な解決策へとブラッシュアップしていきます。</p> <p>■ フィードバックと改善 効果検証の結果を基に、施策が成功した点、改善が必要な点を洗い出します。 新たな課題が見つければ、再度「1. 課題の特定と目標設定」に戻り、このサイクルを繰り返します。</p>

Excelじゃだめなの？: Excelデータは分析に不向き

Excelが業務改善に向かない7つの理由

1	Excelは「見た目が表」でも本質的にはデータベースではない	主キー・リレーションが無い: 同じ取引先が「株式会社山田」「山田株式会社」など別名で重複。集計時に同一企業と判定できない。 結合セルや空白行: 人間には整って見えても、BIツールやPythonでは正しく列を認識できない。
2	入力が自由すぎてフォーマットが崩壊しやすい	日付が「2025/6/5」「5-Jun-25」と混在、数値にカンマがあったり無かったり。 セルに数式を上書き、余計なスペースが混入——事前のデータクレンジングが必須。
3	バージョン管理がファイル名頼み	「最終版_確定_v3_修正版.xlsx」が乱立し、どれが最新か分からない。 過去ファイルと突合せる作業が分析時間を圧迫し、再現性も低い。
4	行数が増えると処理が重く・危険も増える	データの行数が多くなると動作が急激に遅くなり、途中でフリーズ。 誰かが列を削除しても履歴が残らず、ロールバック不能。
5	協業時のルールが「口約束」	同時編集は「先に閉じて」「共有ブックは避けて」など運用依存。 アクセス権が粗く、列単位・行単位での権限制御が難しい。
6	自動化・定期更新に弱い	日次取り込みや ETL(抽出-変換-ロード)を組み込むには VBA 依存か手動コピー。 更新のたびにマクロ修正が発生し、継続運用コストが高い。
7	BI/AI ツールとの接続が不安定	Power BI・Tableau・Python から読み込めるのは「列構造が固定」されている場合のみ。 列を並べ替えたり説明文を挿入するとスクリプトが即エラー。

まとめ

Excelは「個人 or 少人数での柔軟な記録」には最適なツールです。しかし、データ量が増え、複数部署で共有し、継続的に分析・自動化したいとなると、構造化データベースや「そのままDX」のような集中管理基盤への移行が不可欠です。

データ品質を担保しながら、BI分析・AI予測・API連携などの付加価値を最小工数で実現するにはデータベース化が必須になります。

「そのままDX」とは? : 使い慣れた帳票を送るだけで業務フローを変えずに利用可能

① 既存の帳票を送るだけ



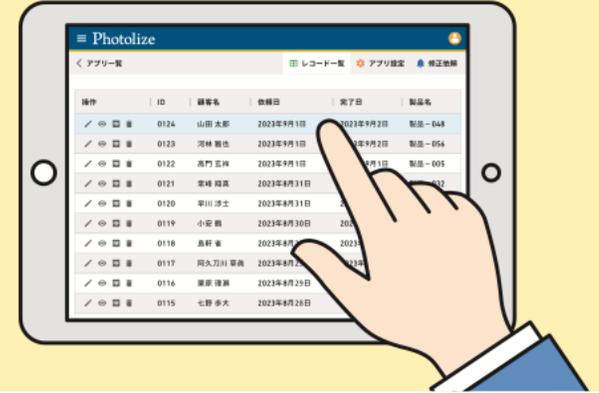
「そのままDX」はまず、お使いの帳票をそのまま送るだけでデジタル化が始まるのが特徴です。紙やPDFなどの既存書式に対応しており、書式を変更する手間も不要。煩雑な準備やツールの導入が不要なので、現場の負担を最小限に抑え、スムーズにスタートできます。データ入力業務にかかる時間とコストを大幅に削減し、作業効率を高める最初のステップです。

② 入力フォームが自動生成



自動生成される入力フォームが「そのままDX」の強みです。紙の帳票を取り込むだけで、AIが必要な項目を抽出し、Web上やスマートフォンで入力可能なフォームを即座に作成。デザインやレイアウトにこだわる必要もなく、設定に時間を割かず運用を開始できます。これにより人為的な入力ミスが減少し、正確なデータ収集が可能となります。また、既存の業務フローを大きく変更することなく、迅速に導入できる点が大きなメリットです。

③ データを使った業務改善



収集したデータを活用することで、業務の可視化と分析が飛躍的に進み、改善の余地を明確に把握できます。紙のままだと見えにくかった処理状況やボトルネックも、数値やグラフで一目瞭然。担当者ごとの作業進捗やプロセスの重複を洗い出し、迅速に改善策を打てるため、作業時間の短縮やコスト削減を実現します。さらに、蓄積データをもとに将来の需要予測や品質向上にも役立てることが可能です。

「そのままDX」でできること

- ✓ 現場の業務フローを変える必要がない
- ✓ 帳票を送るだけですぐにフォームができあがる
- ✓ データ管理が容易にできて自由に抽出できる
- ✓ 様々な機器と連携して使える
- ✓ 業務の見える化と管理が簡単になる
- ✓ 課題解決に必要なデータを素早く入手できる

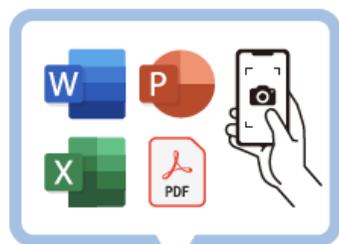
「そのままDX」が御社のIT担当者に代わって作業を実施!

システム学習がいっさい不要! 自分たちで作る必要なし!

\\ いつもの帳票の見た目で入力 //



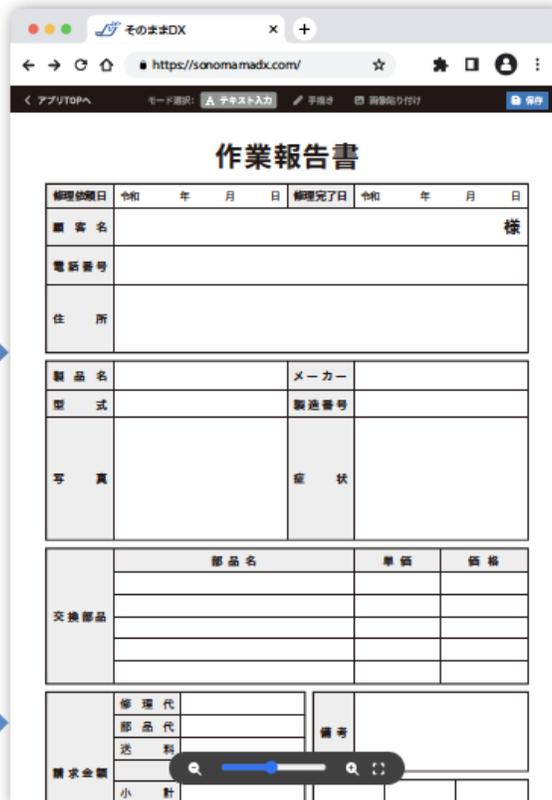
お客様



① 帳票を送るだけ



② チャットで修正指示を送るだけ



作業報告書

修理依頼日	令和	年	月	日	修理完了日	令和	年	月	日
顧客名	様								
電話番号									
住所									
製品名			メーカー						
型式			製造番号						
写真			症状						
交換部品	部品名	単価	価格						
修理代	部品代								
	送料								
請求金額									
小計									

制作・修正



そのままDX

弊社のAIとオペレーターが
お客様の独自システムを制作&修正

使い慣れた紙やExcelなどの帳票を送るだけでシステムができあがる!

自社の業務に合わせたオリジナルのシステム制作は「そのままDX」にお任せ!

「そのままDX」で中小製造業の共通課題を“一気通貫で解決”

DX人材不在/着手不明・技術承継の停滞・人手不足を、現場を変えずに即日データ化→可視化→定着へ



DX人材不足/着手不明

- ・**現状課題**: 紙/Excel依存で属人化。何から始めるか不明。
- ・**解決**: 帳票の写真→見た目そのまま自動フォーム化。IT人材不要・30分レクチャーで即日運用。
- ・**効果/KPI**: 提出率↑(≥80%)、入力時間▲35~50%、検索/集計の自動化、業務の見える化。



技術承継の停滞

- ・**現状課題**: 暗黙知が口伝・紙に留まり、品質/教育にばらつき。
- ・**解決**: 写真・動画・手書き注釈・承認履歴でデジタル職人台帳。OJTチェックも標準化。
- ・**効果/KPI**: OJT到達度の見える化、手戻り▲10~20%、立上げ短縮、標準作業の定着。



人手不足

- ・**現状課題**: 採用難・多能工不足で現場逼迫、承認待ちがボトルネック。
- ・**解決**: 電子承認/自動集計で待ち削減。多言語フォームで外国人材の受け入れも容易に。
- ・**効果/KPI**: 承認リード▲40%、紙コスト▲75~80%、稼働の平準化。

「そのままDX」の特長

① 導入が簡単

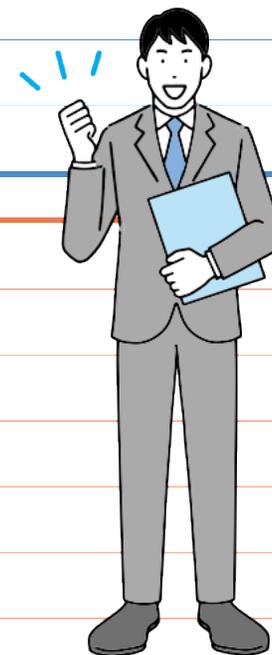
- ✓ 既存の業務フローを変なくても明日から運用できる
- ✓ データベースが自動作成できExcelのように2重管理や2重入力の必要性なし
- ✓ 月額3,980円～(1ユーザー追加:300円)の低価格でご利用可能
- ✓ 日本語・英語・ベトナム語ほか100ヶ国語以上のフォームを自由に作成
- ✓ パソコン・タブレット・スマホなど機種を選ばずに利用可能

② システム作成が簡単

- ✓ 書類やExcelを送るだけで自分でシステムを作る必要なし(追加費用無し)
- ✓ 修正もすべて、弊社のオペレーターが追加費用無しで実施してくれる
- ✓ フォームを見ながら修正指示をするだけなのでITの知識がなくても使える

③ 使い方が簡単

- ✓ サイン、押印、スタンプ、写真貼付けなどオンラインで承認・共有が可能
- ✓ タッチペンやAI音声入力などキーボードを使わなくても手軽に入力できる
- ✓ 帳票や書類様式のデザインをそのまま利用できる
- ✓ デジタルノギスやQRコードリーダーなど様々な入力ツールと連携可能
- ✓ 社内への一括承認依頼や業務タスク管理などのワークフローに使える
- ✓ ユーザーごとの修正履歴を書類のデザインで全て確認可能
- ✓ 顧客に向けた窓口受付やオンライン受付などの申込フォームにも利用可能



社内業務に合わせたシステム制作の比較

比較項目	「そのままDX」	ノーコードツール	Microsoft Excel
学習コスト	◎ ゼロ:今までと同じ見た目で使用できるのですぐに利用が可能	△ ツールごとに操作方法を習得する必要があり、かなり難解(画面設計・データモデルなど)	○ 基本操作は浸透しているが、個々人で使い方が違い入力規制も無いので、ファイルごとの使い方を学習する必要がある
IT専任担当者	◎ 不要:制作も修正もAIとオペレーターが対応	△ プログラムはできなくてもシステム知識のあるIT担当者は必要(制作・設定・保守を担うIT担当者)	△ 業務として利用するためにはマクロやVBAなどの高度な利用方法を実施できる担当者が必要
業務への適合	◎ 最適:既存の業務フローをそのまま反映可能	△ ツールの仕様に合わせて業務を変更しなければならない	△ 自由度は高いが属人化しやすく、データの破損リスクや2重入力、2重管理が発生
制作時間	◎ 最短:書類やExcelなどを送るだけで自動生成。ワンクリック30秒で制作作業が完了	△ ノーコードツールに精通したIT担当者が制作して3時間~1日、外部のITベンダーに依頼すると2~3ヶ月時間がかかる	△ レイアウト・数式・関数以外にマクロ・VBAなどを実装することを6時間~3日程度
制作負担	◎ ゼロ:システム制作の負担なく全ておまかせで生成(制作修正費用はゼロ)	△ 社内のIT担当者もしくは外部のITベンダーなどに制作を依頼	△ 単純な表の作成であれば簡単だが、データベースとなるとマクロやVBAなど高度な製作技術が必要
無償利用	◎ 期限なし:無期限のフリープランを提供していて、自社に合わせて検証が可能	△ 1ヶ月以内の期間限定の無償利用が一般的	× 検証環境はなし、ライセンスを購入して利用
共同編集	◎ 最適:1ユーザーで複数人が同時に利用可能。ワークフローを使って社内外との共同編集が可能	○ 共同編集は可能だが利用者数ごとにユーザー登録が必要になる	△ Microsoft365を利用すると、ファイル共有は可能だが同時編集・性能に限界がある
データ共有	◎ 最適:不特定多数のユーザーの申込みから、データベースを自動生成して外注先とのデータ共有も可能	○ 主に社内業務の連携に使われデータ共有できるユーザーも限定される	△ データを共有するためにはオンライン共有かメールなどでの送信が可能だが、使い方の独自性でデータベースとしての共有は困難
入力方法	◎ 豊富:パソコン、タブレット、スマホに対応しており、AI音声やタッチペンなどの様々な入力方法がある	○ 各種ノーコードツールごとに入力方法を用意しており、そこに合わせた入力ツールが必要となる	△ パソコンでの利用がメイン
毎月の利用料	◎ 低い:月額3,980円~/1ユーザー300円で利用可能/制作費用・修正費用ゼロ	○ 月額:数千円~数万円の利用+IT担当者の雇用や外部への制作依頼などの費用も発生	◎ ソフトウェア購入、もしくは、Microsoft365による月額課金:ユーザー数×2,000円~
主な導入シーン	◎ IT人材が不足する企業で事務所や現場の日常業務全般の改善に利用可能	○ オフィスやパソコンに向かっている時間の長い部署での利用	△ 報告書作成・申請書類・見積書類など個人管理の計算などに使い勝手が良いがデータ管理には向かない
	IT担当者がいなくてもすぐに運用可能	運用にはITシステム担当者が必須	データベースとして利用するには 専門知識が必要

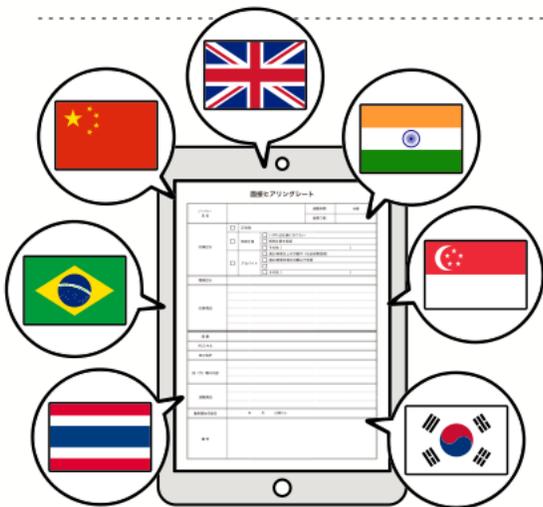
◎=最適 ○=可能 △=不向き ×=できない

「そのままDX」を使うことで、こんな課題を解決します！

<input checked="" type="checkbox"/> 在庫管理の最適化・可視化	<input checked="" type="checkbox"/> クラウド移行の検討・推進	<input checked="" type="checkbox"/> 複数拠点の統制・管理
<input checked="" type="checkbox"/> 需要予測の高度化	<input checked="" type="checkbox"/> BCPの整備・強化	<input checked="" type="checkbox"/> 多品種少量生産への適応
<input checked="" type="checkbox"/> 部門間の情報共有不足	<input checked="" type="checkbox"/> 保守運用コストの高騰	<input checked="" type="checkbox"/> アフターサービス・メンテナンス体制強化
<input checked="" type="checkbox"/> リアルタイムデータ収集と分析基盤の構築	<input checked="" type="checkbox"/> サプライチェーンの可視化・管理	<input checked="" type="checkbox"/> ダッシュボード・レポートの整備不足
<input checked="" type="checkbox"/> システム間連携・統合の難しさ	<input checked="" type="checkbox"/> 生産スケジュールの最適化	<input checked="" type="checkbox"/> DXの推進体制不備
<input checked="" type="checkbox"/> レガシーシステムの置き換えや改修	<input checked="" type="checkbox"/> 工場内レイアウトの見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現場と経営の乖離
<input checked="" type="checkbox"/> IT投資対効果の不透明さ	<input checked="" type="checkbox"/> 安全教育・リスク管理の強化	<input checked="" type="checkbox"/> サイロ化されたデータの統合
<input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト管理の複雑化	<input checked="" type="checkbox"/> KPIの設定・モニタリング体制の不備	<input checked="" type="checkbox"/> 実証実験の結果を本番導入に繋がられない
<input checked="" type="checkbox"/> 従業員のITスキル不足	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス標準化の不徹底	<input checked="" type="checkbox"/> 外国人雇用への対応
<input checked="" type="checkbox"/> 属人的なノウハウの可視化	<input checked="" type="checkbox"/> コストダウン策の検討不足	<input checked="" type="checkbox"/> データ精度の確保
<input checked="" type="checkbox"/> AI・IoT活用に向けたインフラ不足	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー使用量の監視・削減	<input checked="" type="checkbox"/> 現場作業員へのITソリューション浸透
<input checked="" type="checkbox"/> セキュリティリスクの増大	<input checked="" type="checkbox"/> 持続可能性への対応	

海外展開や多国籍プロジェクトを“そのまま”シームレスに

100ヶ国語以上にワンクリックで対応



「そのままDX」は、既存の帳票やExcelをアップロードするだけで、100ヶ国語以上に対応した業務システムを自動生成します。追加開発や複雑な設定は一切不要。海外拠点や多国籍チームでも、すぐに同じシステムを共通言語で利用できます。

AI翻訳エンジンを標準搭載

入力フォーム・チャット・ワークフローのすべてにAI翻訳機能を内蔵。ユーザーが話したり入力したりした内容をリアルタイムで自動翻訳し、相手の言語で表示します。翻訳結果はデータベースにも保存されるため、後から検索・分析もスムーズです。



活用シーン例

- **グローバル製造業** : 現地工場の品質報告書を多言語で統合管理
- **自治体・公共機関** : 外国人住民向け手続きフォームを自動翻訳付きで公開
- **観光・サービス業** : 予約・問い合わせフローを100ヶ国語で提供し、訪日客の満足度向上



料金プラン

- 初期費用：10万円 …… 導入サポートをご利用の場合は、初期費用が無料になります。
- 導入サポート：月額10万円～(3ヶ月契約) …… サポート内容は、お客様に合わせてお見積りいたします。

ライトプラン	
複数ファイルのExcel管理を一元化したい 小規模・個人事業者向けのプラン	
月額： 3,980円 (年払い)	
月額：4,980円(月払い)	
ユーザー数： 5 ユーザー(1ユーザー追加:300円/月)	
フォーム数： 1 フォーム(1フォーム追加:3,000円/月)	
入力枠の設置上限： 100 枠/フォーム	ストレージ： 10 GB
CSV出力回数： 500 回/月	API連携出力回数：なし
マスタのシート数： 5 個	マスタ登録の行数： 5,000 行
ライトプランの主な機能	
AI+人によるフォームの自動生成	ユーザー別のフォーム表示制限
オペレーターによるフォーム修正	入力履歴の表示と印刷
データベースの自動生成	タッチペンやノギスでの入力

スタンダードプラン	
複数拠点や他部署との連携や社内承認を利用する 10人以上の中小企業に最適なプラン	
月額： 19,800円 (年払い)	
月額：25,800円(月払い)	
ユーザー数： 20 ユーザー(1ユーザー追加:300円/月)	
フォーム数： 5 フォーム(1フォーム追加:3,000円/月)	
入力枠の設置上限： 250 枠/フォーム	ストレージ： 50 GB
CSV出力回数： 2,000 回/月	API連携出力回数： 2,000 回/月
マスタのシート数： 20 個	マスタ登録の行数： 20,000 行
スタンダードプランの主な機能(ライトプラン+追加機能)	
ゲストユーザー(入力専用)	絞り込み選択機能
ワークフロー承認機能	署名サイン
レコード表示制限	通し番号

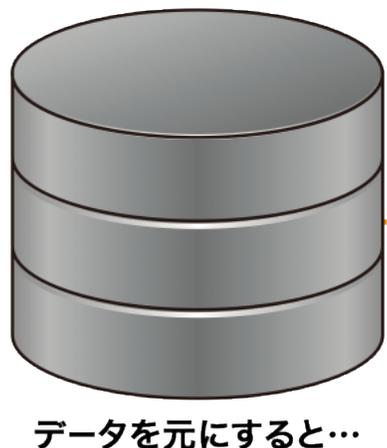
プレミアムプラン	
複雑な帳票のカスタマイズやお客様向けフォームを ビジネスに活用する企業にも対応可能なプラン	
月額： 49,800円 (年払い)	
月額：59,800円(月払い)	
ユーザー数： 50 ユーザー(1ユーザー追加:300円/月)	
フォーム数： 10 フォーム(1フォーム追加:3,000円/月)	
入力枠の設置上限： 500 枠/フォーム	ストレージ： 100 GB
CSV出力回数： 5,000 回/月	API連携出力回数： 5,000 回/月
マスタのシート数： 50 個	マスタ登録の行数： 50,000 行
プレミアムプランの主な機能(スタンダードプラン+追加機能)	
AI要約機能	オリジナルTOPページ
AI翻訳機能	お客様向けフォーム直リンク
AI音声入力	しきい値設定

※「そのままDX」を無料で体験できる『フリートライアルプラン』もご用意しています。シンプルなタスク管理や情報共有からご利用いただけます。

※ 年払いプランをご利用中に上位プランへ変更する場合は、年払い終了までの差額のお支払いで可能です。料金プランによる機能の違いは、お客さまのご利用方法をお伺いの上、担当よりご案内いたします。

データを活用した業務改善の実践

一つのデータから様々な分析が可能です



データ種別	主な活用領域	主な効果
生産設備データ (稼働状況、センサー情報、故障履歴)	製造、作業、設備保全	生産性向上、予知保全、品質改善、コスト削減、ダウンタイム最小化
顧客データ (購買履歴、Web閲覧履歴、問い合わせ履歴、使用状況)	営業、製品開発、マーケティング	需要予測、パーソナライズ、顧客満足度向上、新製品開発
作業データ (手順、工数、品質チェック記録、熟練工のノウハウ)	業、製造、人材育成	業務平準化、ヒューマンエラー削減、技術継承、労働力不足解消
見積りデータ (過去の見積り、図面、原価、工数)	見積り、営業	見積り精度向上、作成時間短縮、原価管理最適化、属人化解消
サプライチェーンデータ (在庫、物流、調達、市場動向)	営業、製造、全体最適化	在庫最適化、リードタイム短縮、サプライチェーンレジリエンス強化、需要予測



- 営業・マーケティング
- 見積り・原価管理
- 設計・開発
- 生産計画・進捗管理
- 製造現場・作業効率
- 品質保証
- 保全・設備管理
- 資材調達・在庫
- 物流・配送
- 環境・エネルギー
- 安全・コンプライアンス
- 人材・組織
- 経営戦略・全社最適

DX成功の鍵：スモールスタートと現場定着

DXを成功させるには、いきなり大規模な改革に着手するのではなく「スモールスタート」で始め、現場にしっかり根付かせることが重要です。

まずは既存の業務フローを見直し、小規模なデジタル化から段階的に進めることで、社内のDXリテラシー（理解度や習熟度）を徐々に高めていきます。

DXは単なるITツール導入ではなく業務改革そのものですから、現場の文化や仕組みも合わせて変革する視点が欠かせません。

そのため、経営層のリーダーシップと現場の巻き込みの両輪で推進し、「現場での定着」を図ることが成功の鍵となります。

以下では、製造業におけるDXを小さく始めて大きな成果につなげる具体的なアプローチを、順を追って解説します。



1	小さな現場課題からDXをスタート	<p>まずは現場で日々発生している小さな課題に焦点を当て、そこからDXを始めましょう。</p> <ul style="list-style-type: none">・点検チェックリストの記入（設備点検や衛生チェックなどを紙で実施）・作業日報・報告書の作成（生産数量や作業内容を紙の日報に記録）・保守記録や検査結果の管理（紙台帳やExcelで分散管理）
2	現場参加型の導入で属人化と抵抗を防止	<p>DXを進める際には、現場の従業員が主体的に参加できる導入プロセスを設計することが肝心です。そのためには、自分でもできると思わせることができるわかりやすいシステムが必要です。複雑で専門的な知識が必要なシステムは不向きです。「そのままDX」を利用することで、特定の担当者だけに頼っていた手作業業務も数日でデジタルな仕組みに置き換えられます。</p>
3	ツール活用によるデータ蓄積の仕組み	<p>DXの取り組みでは、データの蓄積と活用が成果を大きく左右します。ポイントは、現場で無理なくデータ入力・取得できる仕組みにすることです。ツール選定時には「現場のITリテラシーに合っているか」「入力の手間がかからないか」「既存のExcelなどと連携できるか」もチェックし、現場に優しいデータ収集基盤を構築しましょう。</p>
4	データ分析・可視化による継続的な改善	<p>デジタル化により蓄積されたデータは、分析・可視化して初めて価値を生みます。例えば、ある工場では時間帯別の生産数をグラフ化することで「午前11時台に生産性が急落している」という課題を発見し、休憩前の段取り作業に問題があることを突き止めています。データの可視化には、専門的なツールを使わなくともExcelのグラフ機能で十分な場合も多いです。重要なのは、現場で日常的にデータを見る習慣をつけることです。</p>
5	成果の見える化と横展開で全社へ拡大	<p>スモールスタートで得られた成果を「見える化」し、社内で共有・展開することで、DXの効果を組織全体に波及させます。成果を水平展開する際には、単に真似するだけでなく成功要因を標準化してノウハウ化しておくことが大切です。うまくいった仕組みや手順をテンプレート化・マニュアル化し、「どのように進めれば同様の効果が得られるか」という知見を社内に蓄積します。</p>

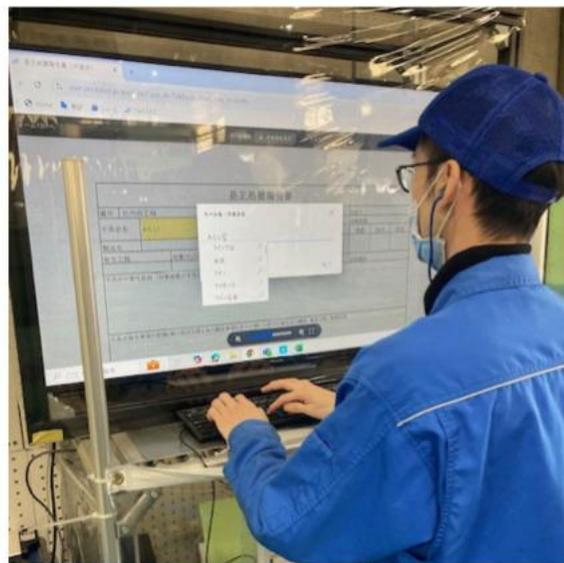
DXを怠るリスク(やらない場合の弊害)

1	競合他社に遅れるリスク	約8割の製造業が何らかのDX施策に着手	データを活用した生産管理システムやAI検査などを既に導入している企業は年々増加しており、最新の調査では製造業の約8割がDXを進めているとの報告もあります。自社だけが旧来のアナログや属人的な業務に留まっていると、生産性や品質面での差が徐々に拡大し、価格競争や納期競争で不利になる可能性が高まります。
2	経営損失・機会損失	見えないコストが積み重なる	データを一元化せず、各部署が紙やエクセルでバラバラに管理していると、属人的なミスや入力漏れ、転記ミスが発生しやすくなります。例えば、「在庫の正確な数が分からず、生産ラインを一時停止せざるを得ない」「納期に間に合わず追加コストや急ぎの外注費が発生する」といった事態が毎月のように起こると、それだけで数百万円～数千万円単位の損失につながる恐れがあります。
		売上機会の逸失	AIによる需要予測をしていないために繁忙期に在庫切れを起こしたり、逆に需要が落ち込むタイミングで過剰生産して廃棄ロスが生じたりすることも、毎年数%の売上・利益を失う要因になり得ます。中小製造業の場合、1～2%の利益率悪化でも経営に大きな影響が及ぶ可能性があり、DXを怠ることで発生するこうした「見えない損失」は長期的に見れば非常に大きな痛手となります。
3	人材・ノウハウ流出のリスク	データ活用できる人材が育たない	AIやデータ解析が普及する中で、デジタルスキルを持つ人材は多くの企業で取り合いになっています。自社がデジタル化に消極的だと、若手や中堅社員はスキルを活かす場や成長機会を求めて転職してしまうリスクが高まります。
		属人的なベテラン技術が継承されない	経験豊富なベテランが持つ「暗黙知」をデータ化・可視化しないまま退職すると、ノウハウが失われ、技術力や品質維持に大きな穴が空く可能性があります。DXであれば、熟練作業者の判断基準や工程データをデータベース化しAIに学習させることで、組織の共有資産としてノウハウを残すことができます。これを怠ると、将来の事業継続性が一層不透明になってしまいます。

シンニチ工業株式会社「そのままDX」活用事例



現場スタッフが
自主的にフォームを製作運用



75歳の協力会社が
違和感なくすぐに使える



導入前の課題

フォームを1件変更するたびに見積 + 開発3~4ヶ月。現場は待ち切れず、開発したシステムも使われないため、担当者が自分で作れる仕組みが必要。さらに外注先(平均75歳)もデジタル導入を拒否したため、従来システムはすべて断られ、データが紙のまま滞留した状況。

導入事例：協力会社からの生産実績報告書[製造業]

導入前 [FAX]

<生産実績報告書> 2024年8月28日

部品番号	鋼種	製品サイズ	出来高	仕数	使用品番	使用鋼種	使用サイズ	使用数
707-772-0	SUS436L	φ101.6×t1.5×L392.3			00707720-23030	SUS436L	t1.5×w314.5×L392.3	
707-784-1	SUS436L	φ152.0×t1.5×L425.0	50	>	607077841	SUS436L	t1.5×w472.8×L425.0	52
707-750-2	SUS436L	φ105.0×t1.5×L404.4			007077502-23030	SUS436L	t1.5×w325.0×L404.4	
708-262-0	SUS436L	φ78.5×t1.5×L334.0	100	1	007082620-23030	SUS436L	t1.5×w241.9×L334.0	101
707-955-1	SUS436L	φ78.5×t1.5×L334.0	200	2	007079551-23030	SUS436L	t1.5×w241.9×L334.0	202
707-708-2	SUS436L	φ97.3×t1.5×L367.7			007077082-23030	SUS436L	t1.5×w300.8×L367.7	
707-933-0	SUS436L	φ60.5×t1.5×L309.3			007079330-23030	SUS436L	t1.5×w185.3×L309.3	
707-685-0	SUS436L	φ60.5×t1.5×L352.0	80	0	007076850-23030	SUS436L	t1.5×w185.3×L352.0	80
707-741-0	SUS436L	φ80.0×t1.5×L363.4			007077410-23030	SUS436L	t1.5×w246.0×L363.4	
707-834-1	SUS409L	ID80.6×t1.2×L114.0			007078341-76397	SUS409L	t1.2×w258.0×L114.0	
209-169-0	SUS409L	ID80.6×t1.2×L103.0	400	6	002091690-23030	SUS409L	t1.2×w258.0×L103.0	406

<実績集計> 出来高 870 × 100 = 98.7%
投入数 841

<報告事項-他>

シンチ工業株式会社

導入後 [データ連携]

<生産実績報告書> 2024年09月17日

部品番号	鋼種	製品サイズ	出来高	仕数	使用品番	使用鋼種	使用サイズ	使用数
707-772-0	SUS436L	φ101.6×t1.5×L392.3			00707720-23030	SUS436L	t1.5×w314.5×L392.3	0
707-784-1	SUS436L	φ152.0×t1.5×L425.0			607077841	SUS436L	t1.5×w472.8×L425.0	0
707-750-2	SUS436L	φ105.0×t1.5×L404.4	40	0	007077502-23030	SUS436L	t1.5×w325.0×L404.4	40
708-262-0	SUS436L	φ78.5×t1.5×L334.0	485	1	007082620-23030	SUS436L	t1.5×w241.9×L334.0	486
707-955-1	SUS436L	φ78.5×t1.5×L334.0	160	2	007079551-23030	SUS436L	t1.5×w241.9×L334.0	162
707-708-2	SUS436L	φ97.3×t1.5×L367.7	180	3	007077082-23030	SUS436L	t1.5×w300.8×L367.7	183
707-933-0	SUS436L	φ60.5×t1.5×L309.3	300	5	007079330-23030	SUS436L	t1.5×w185.3×L309.3	305
707-685-0	SUS436L	φ60.5×t1.5×L352.0			007076850-23030	SUS436L	t1.5×w185.3×L352.0	0
707-741-0	SUS436L	φ80.0×t1.5×L363.4	160	5	007077410-23030	SUS436L	t1.5×w246.0×L363.4	165
707-834-1	SUS409L	ID80.6×t1.2×L114.0	600	10	007078341-76397	SUS409L	t1.2×w258.0×L114.0	610
209-169-0	SUS409L	ID80.6×t1.2×L103.0	220	16	002091690-23030	SUS409L	t1.2×w258.0×L103.0	236

<実績集計> 出来高 2,145 × 100 = 98.1%
投入数 2,187

<報告事項-他>

シンチ工業株式会社

データ活用どころか入力自体が負担…

各種書類の手書き&社内での再入力を続けた結果、日々の入力負荷+集計の遅れが発生。

再入力に追われ、歩留まり分析の時間ゼロ。担当者のモチベーションも低下。

同じ見たくてデジタル化!

FAXとレイアウトが“そのまま”の入力フォームを30秒で自動生成。外注先も違和感なく入力が可能となり、社内の再入力作業がゼロに。

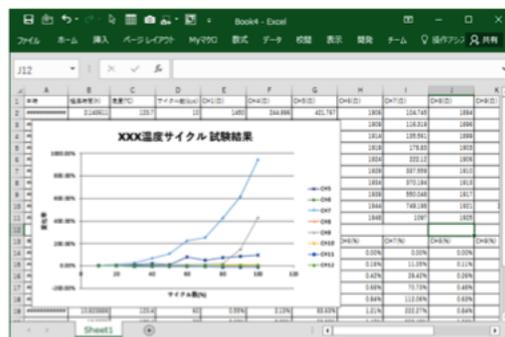
データ集計とグラフ化

そのままDXに入力したデータをExcelに出力するだけでグラフ表示
グラフで問題のある箇所をピックアップして詳細を確認

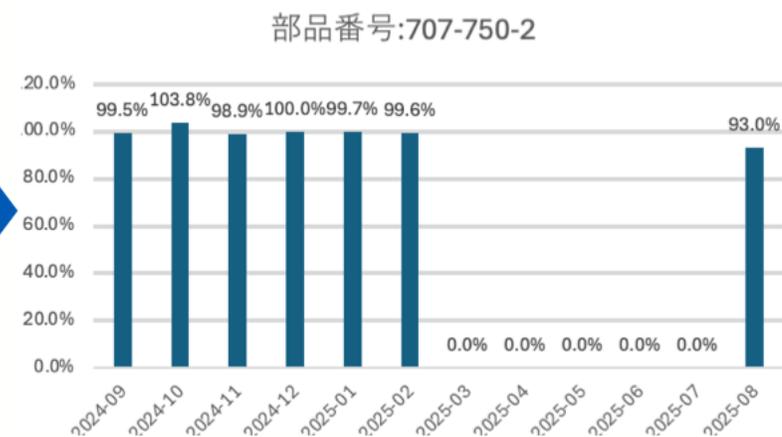
入力した内容が自動的に
データ一覧に



分析に合わせてCSV出力



グラフ化して概要を確認



- 自動でデータベース化 & 出力送信されたデータはレコード化され、ワンクリックでExcel/CSVにエクスポート
- 並べ替えて貼り付けるだけで月次資料が作成可能
- 歩留まりグラフを即時生成
- Excel上でテンプレートに貼るだけで、月次歩留まり率を可視化
- 問題月は自動で色分けされ、詳細追跡が即時開始可能

導入事例：工程検査記録表[製造業]

紙に手書きで記入

部品	検査項目	検査標準	1	2	3	
φ83±0.7 0.00 ~ 0.10	90度-A 90度	φ83.00	1	82.87	82.72	82.87
			2	82.87	82.72	82.87
			3	82.87	82.72	82.87
			4	82.87	82.72	82.87
φ83±0.7 0.00 ~ 0.10	90度-B 90度	φ83.00	1	82.76	82.91	82.71
			2	82.67	82.82	82.72
			3	82.87	82.72	82.87
			4	82.87	82.72	82.87
φ83±0.7 0.00 ~ 0.10	90度-C 90度	φ83.00	1	82.87	82.72	82.87
			2	82.87	82.72	82.87
			3	82.87	82.72	82.87
			4	82.87	82.72	82.87
φ83±0.7 0.00 ~ 0.10	90度-D 90度	φ83.00	1	82.87	82.72	82.87
			2	82.87	82.72	82.87
			3	82.87	82.72	82.87
			4	82.87	82.72	82.87

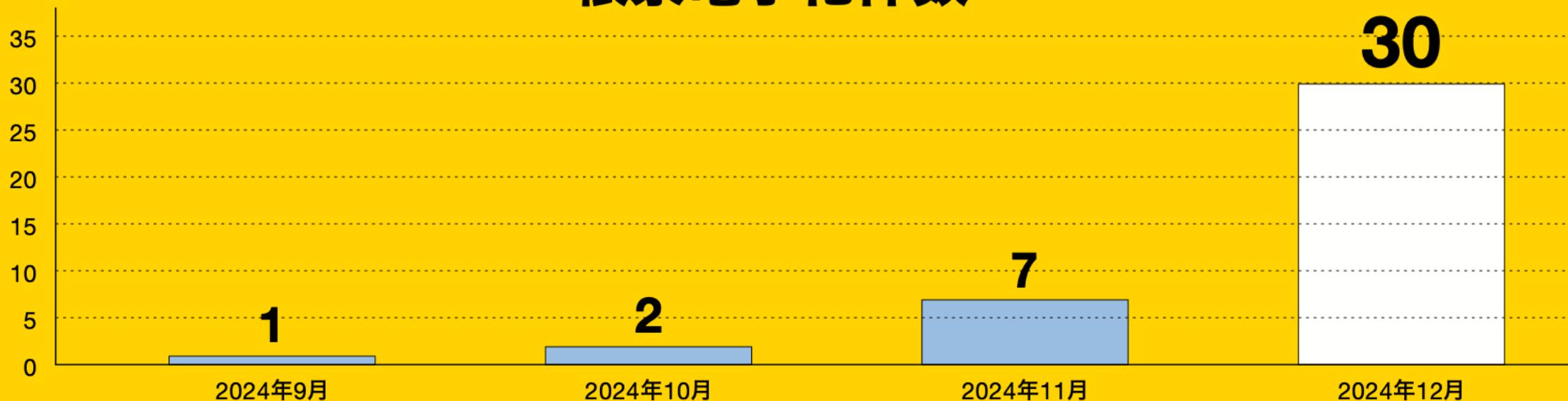
計測器から自動入力

部品	検査項目	検査標準	1	2	3	
φ83±0.7 0.00 ~ 0.00	90度-A 90度	φ83.00	1	83.1	83.5	83.1
			2	83.2	83.6	83.2
			3	83.3	83.7	83.3
			4	83.4	83	83.4
φ83±0.7 0.00 ~ 0.00	90度-B 90度	φ83.00	1	82.3	82.7	83.1
			2	82.4	82.8	83.2
			3	82.5	82.9	83.3
			4	82.6	83	83.4
φ83±0.7 0.00 ~ 0.00	90度-C 90度	φ83.00	1	1.08	1.2	1.32
			2	1.08	1.2	1.32
			3	1.08	1.2	1.32
			4	1.08	1.2	1.32
φ83±0.7 0.00 ~ 0.00	90度-D 90度	φ83.00	1	80.94	81.1	80.96
			2	81.04	81.2	80.96
			3	81.14	81.3	80.96
			4	81.24	80.6	80.96

- デジタルノギス連携測定器から値を直接取得し、入力ミスのゼロ化に成功。紙保管では追跡不能だった“不良ロット”も瞬時に検索可能
- 不良品の見逃しを防止し、クレームコストを削減
- 「書類を送るだけでフォーム化」を横展開し、現場の情報共有が加速的にデジタル化

導入事例：短期間で多くの帳票を電子化

帳票電子化件数



帳票名

1 生産実績報告書

2 工程異常報告書

3 ヒヤリハット報告書

4 是正処置報告書(不適合)

5 是正処置報告書(品質改善)

6 予防処置報告書

7 不適合製品報告書

8 工程検査記録表①(外注先)

9 工程検査記録表②(SUS課)

10 工程検査記録表③(Fe課)

16 入荷コイル検査表

17 材料不良廃棄報告書

18 手直し品報告書

19 物品購入依頼書

20 改善提案書

...

...

導入の成果

- ① 入力レスでリアルタイム歩留まり把握
- ② データドリブンで異常を即是正
- ③ 現場主導DXで社内展開が加速

今後の展開

今後は、生産計画システム／在庫管理との連携で、部材受払～歩留まり改善をワンストップで自動化する予定。

「そのままDX」の導入効果実績

■ 入力工数

25.0時間/月 ▶ 5.0時間/月



■ 日次集計

10.0時間/月 ▶ 1.7時間/月



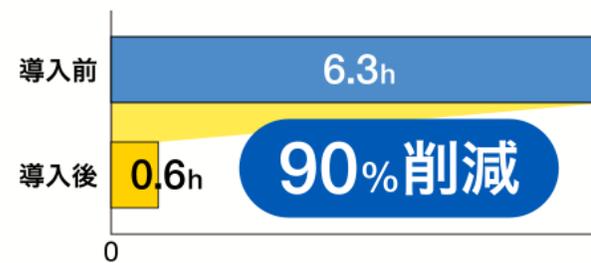
■ 週次レポート/グラフ

4.0時間/月 ▶ 0.7時間/月



■ 入力ミス起因の手戻り

6.3時間/月 ▶ 0.6時間/月



codeless
technology
inc.

① 企業概要

会社名	codeless technology株式会社
設立	2020年4月1
所在地	東京都品川区東五反田 2 - 5 - 2
資本金	38,380,133 円
事業内容	ノーコードのDXツール「そのままDX」の開発・提供・運用支援
実績	行政・公共機関・中小大手企業多数へのDX導入サポート

② ミッション・ビジョン

ミッション	世界一簡単なDXの第一歩を実現
ビジョン	すべてのシステムの入口となりデータで未来を創る
特徴	プログラミング不要のノーコードツールにより、短期間かつ低コストで業務プロセス変えずにDXへの取り組みを可能とする

③ 現場作業の情報収集への思い

「そのままDX」は、DX推進の課題が多い日本の現場のシステム導入を簡単にするために開発しました。分かりやすく、誰でも負担なく利用できる「そのままDX」はIT担当者がいない現場でも使いこなせます。私たちは、この「そのままDX」で現場のDXを推進していきます。ご支援ご協力をお願いします。